平成29年度 栃木県校友会 学術研修会ならびに賀詞交歓会

平成30年２月11日（日）宇都宮ホテルニューイタヤにて，平成29年度栃木県校友会学術研修会ならびに賀詞交歓会が近藤勝洪校友会本部会長をお迎えし行われた。司会は本年度より柴田征紀専務理事（86回）が担当された。安西未央子副会長（68回）の開会挨拶の後，恒例の校歌斉唱が行われた。続いて佐川徹三県校友会会長（68回）の挨拶では川俣純子会員（74回）の那須烏山市長就任，小林幹夫会員（67回）の県議会議長就任について，中原 貴 生命歯学部発生・再生医科学講座教授のウシ血清を使わない歯髄細胞利用の幹細胞大量培養の成功，遅澤弘明会員（67回）のへき地巡回診療の功績による医療功労賞受賞についてなどの話があった。

来賓挨拶では近藤会長から大学の状況などの話があった。続いて川俣市長からの一言があり14時から講演に移った。

半田 功 副会長（78回）の講師紹介のあと講演が始まった。講師は里見貴史東京医科大学口腔外科学分野臨床准教授（79回），テーマは薬剤性顎骨壊死を再考する「ビスフォスフォネート製剤等にどのように対処したらいいか」，さらに口腔がんや口腔外科の最新情報を話された。講演では薬剤性顎骨壊死に対する日本版ポジションペーパー 2016の位置付けと解釈をわかりやすく説明してくださった。４年超えの MRONJ 関連薬の服薬があり，重度の骨粗鬆症で原疾患の併用薬がある場合は二次医療機関への相談紹介が妥当だというのは，いつも覚えておくべきことだろう。その上で我々臨床医が心しなければならないのは，ポジションペーパーを守りつつ（徒らに術前術後の休薬を患者に強いることなしに）口腔衛生の指導を徹底し医科との緊密な連携をとり，MRONJ の早期発見に努めて歯科治療を推進することだとまとめられた。その後，話は先生の専門であるがん治療に移り，眼を見張るような症例を次々と見せてくださり最新の療法，技術を紹介された。最後におまけで我々臨床医でもできるガマ腫の微小開窓法（太い絹糸で縫合し留置）を紹介された。

講演する里見先生

質疑応答

佐川会長の謝辞，臼井正人副会長（73回）の閉会の挨拶で講演は終了した。里見先生のまさに新進気鋭切れ味ある講演と新たに専務理事に就任された司会の柴田会員のフレッシュな二人を配した研修会は新鮮で大変有意義なものだった。

会場を見晴らしの良い８階オーロラに移し，賀詞交歓会が行われた。宮下 均 栃木県歯科医師会会長も参加され，楽しく盛り上がった。長老格の名取喜久雄顧問（50回）によるズッコケやり直し三本締めで和気藹々のうちにお開きとなった。

（前橋　潮・75回記）